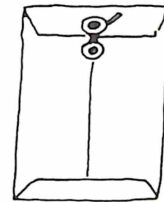


秋の夜

小山内 トモ子

静かな 静かな秋の夜
読みかけの本を 横に
窓を少し開け
月でも見ながら
酒でも飲んで見ようか
かすかに聞こえる虫の声
時折きこえる犬の声
月と無言の対話は
ロマンチックな 別世界へ
誘ってくれる
こちよい風が 酔いをやわらげ
時計の音が 時を告げる
静かに 静かに 秋の夜は更けて
月に乾杯！



短歌

奴をどり

会員
木下 加津恵

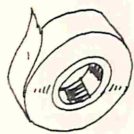


いま在らば共に母看る日もあるを
四十路に逝きしわれの妹
夏まつり奴をどりの三味線響れば
踊り上手の妹の顔つ
奴をどり町を練りゆく生徒らの手の
空へ放てば小鈴響かふ
ケノ汁に正月の餅すすめつつ
虎落笛聴く独りの甥と
汝が母と吾を重ねる独りなる
甥より給ふ初の年玉

怪我

菊地 美絵

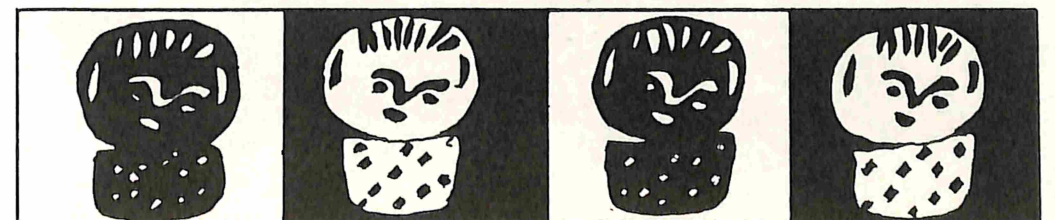
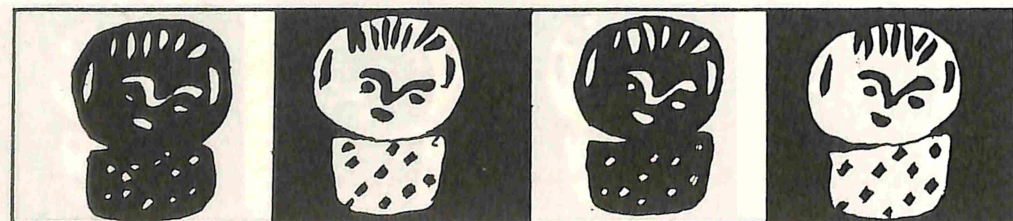
ハンマーは吾が眼の玉を直撃す
地獄さながらのたうち迫る
眼の玉の碎けるごとき激痛に
冷汗流す大寒睦月
燃ゆるごとき熱き眼の玉冷やしつつ
吹雪窓打つひと夜長かり
血の海に浸るごとき眼の玉を
うつす手鏡震へてやまず
痛む眼に悶々しつつ窓繰れば
睦月寒夜の風なだれ込む



残火

花田 征五郎

老ゆるとはかかることかと諾ふわれ
耐ゆ飾らぬ無欲このごろ
めくるめく茜の空に一群の
小鳥とびゆく平和なわが里
台風近づきをるを知りてしか
池の蛙は今宵は鳴かず
それぞれの運命の色と吾は見き
黄葉赤葉散る庭の諸木々
わが心裡には燼る残火ありや
燃えなむとして風を待ちをり



龍飛崎

櫛引 八千代

寒ざむと沖あひ暗み龍飛崎

干されし鳥賊もしぐれに濡るる

岩肌に打ち寄す波の音ききつ

秋の夜寒むを出で湯に浸る

今年より吾れの役目と仏壇に

念仏唱ふ盆の棚吊る

雪降らぬ師走の街は華やきて

ひととき早くともる灯青し

傍らに寝返る夫の酒臭き

匂ひ漂ふ大つごもりの夜



短歌

白川 哲子

新しき碁盤買ひたる老い夫は

孫との対局ひたに待ちをり

晴れた日にしきりに聞こゆ虫の声

生きてる證し我に告げんや

農を継ぐ息子は嘆く減反と

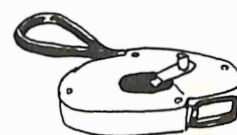
米価の下り打つ手はなきと

高屋根をこり落ちたる雪塊に

大玻璃戸割れ老い夫慌てる

雪囲ひほどかれ庭木々うらかな

日差しの中に背伸びするがに



短歌

原田 喜一郎

秋日和冬に備へし干大根

何れの農家もカーテンの如

どかまけの街の店みせ店頭に

甘酒置きて客に振る舞ふ

カホカ木と北帰の白鳥列なして

見送る吾に左様なら言ふがに

せせらぎを下に聞きつつ山菜を

摘む日陰には残雪あまた

今年また雑魚の産卵季となり

四手網揚ぐわれの腕の確かさ



俳句

おぼぎ



会員
高橋 けん一

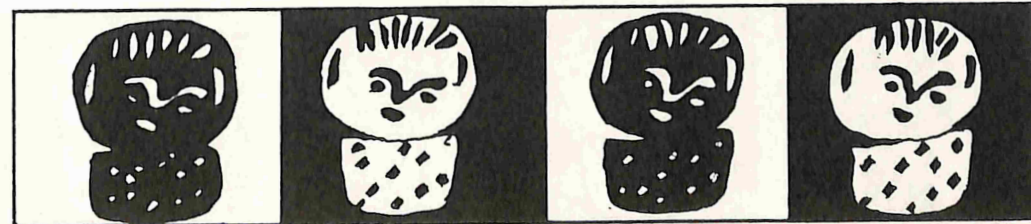
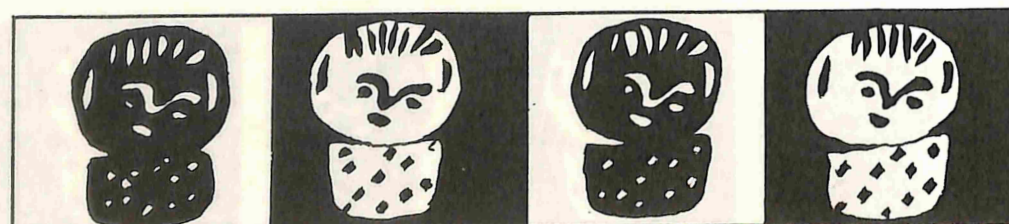
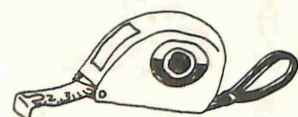
おぼぎといふ母の針簞 桐の花

マギの恋むかしにありき夜這星

村の秋金多豆藏芝居くる

まるめろう亡母の粧い古簞筒

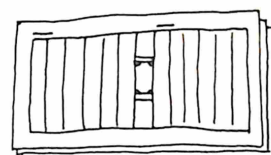
しがまっこ太れチンポコほらおがれ



熟れゆくもの

峰 秀女

万緑や太宰生家の太い梁
ねんごろに明日逢う髪を二度洗う
軒蜘蛛におんなの着替え覗かれし
肩書を持たぬ軽さや桜の実
雪まろげ熟れゆくものや乳房まで

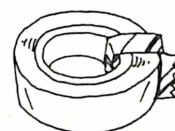


川柳

笹の舟

たかはしけんいち

川上に夢みる子あり笹の舟
しゃぼん玉吹く子にどんな十年後
タンポポの王冠編んで誕生日
かんざしを買へず野に出て花探す
虹に手を触れよと父の肩ぐるま

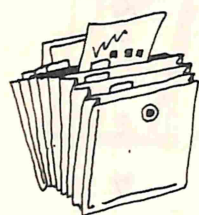


女の水たまり

会員
櫛 引 八千代



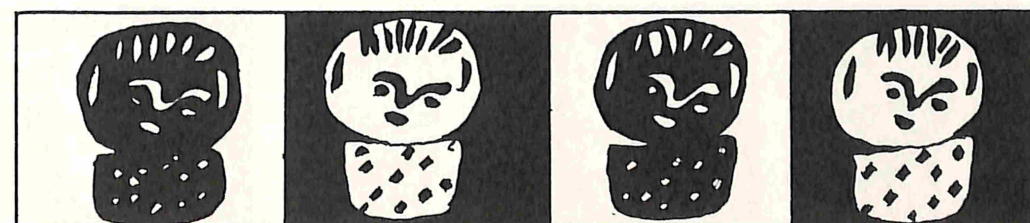
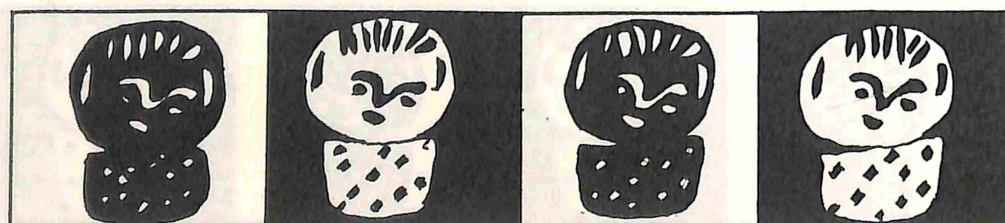
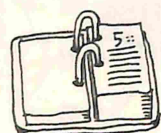
恋ひとつ沈め女の水たまり
蝶一匹男の歩幅狂わせる
沈黙の底で発火の時を待つ
狂うかも知れぬ火の髪梳いている
どさくさにまぎれ貧乏神すわり



絆

成田チセ

一流を超えた二流の人間味
飾らない言葉に人の味がある
おだやかな顔と心で百を生き
妻だもの段差あつての絆です
いい時もあるさ我満の雑魚でいる



花一輪

今
ミ
サ

褒められて

花一輪を分けてやり

桜花

ささやく間なく春の風

春の庭

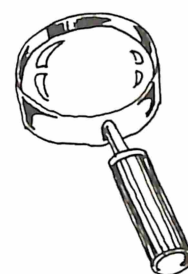
色あざやかな山つつじ

眠られぬ

夜もあるのさ春の月

母の日の

あけてうれしい宅配便



黒田節

白川
哲子

予感的中大者ぞろり裁かれる

父歌う十八番の黒田節

勇気りんりん裡参りに見る若さ

全世界陽は惜しみなく愛あたえ

図書館で勉強した子学位取る



座りだこ

岩田
重美

耐えてきた母に歴史の座りだこ

働いた汗は一粒つつみのる

激動の世界ひとつの月を見る

罪のない西瓜叩いて売りに出す

鈍感な妻でも俺れの勲章だ



神だのみ

鳴海
春光(昭治)

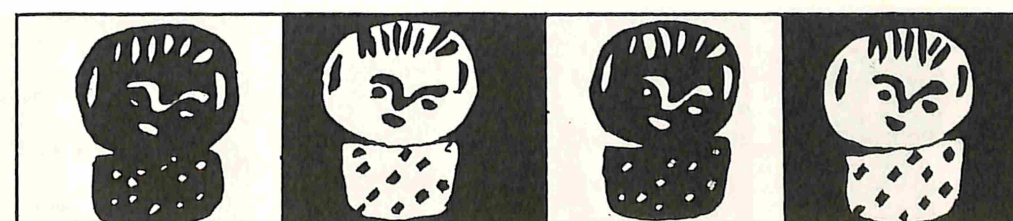
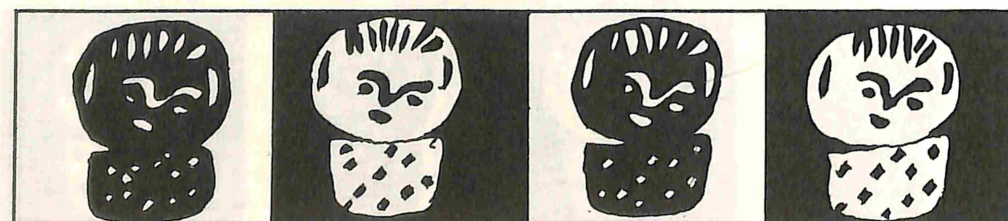
松並木通路の笠が懺悔する

百円で山ほど祈る神だのみ

再犯を告げる保護司もまた涙

老いたとてまだまだ見たい恋螢

ぎりぎりに追いつめられて知恵が出る



里の盆

泉谷てい

虫の声昔懐かし里の盆

里の盆亡父に日露の光る過去

再びは帰らぬ母に詫び一つ

生きてゐる幸せ庭の四季の彩

人の輪に入って見えた虹の橋



地吹雪ツアー

竹内恭子

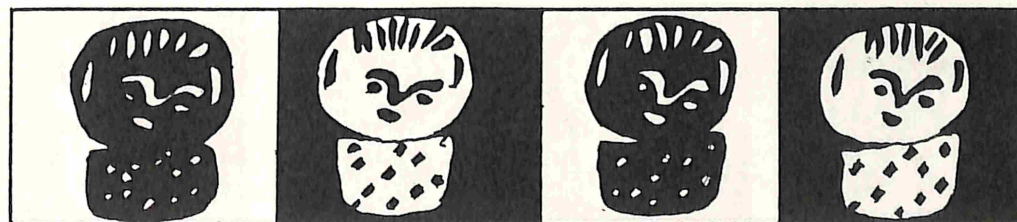
老人の 若き友との 語り合い

忘年会 胃ぐすり持参 飲み明かす

地吹雪ツアー 寒さ知らずの 都会人

今の世は 何を信じて 良いのやら

秋を呼ぶ 津軽名物 鈴虫列車



秋の夜長

小山内 トモ子

盆来ても 一人暮しの飯を食う

里帰り 来た日の荷物 倍になり

しみじみと 秋の夜長の 一人酒

ナもワもと やぐしてしゃべる津軽弁

夕暮れて 秋は寂しい 茜色



津軽弁 村の笑い話コ

乳は誰のもの

町の産婦人科入院室で、若い産婦たちが話していた。

「奥さん、お互いに丈夫な赤ちゃんで、本当によかったね」

「でも、私三人目なの、あまりおめでたくないわ」

「アーラ、奥さん、そんなに

出るオッパイ赤ちゃんにあげ

ないで止めちゃうの、もった

いないこと」

「だって、うちの主人母乳飲

まないもん」

(森平)



金木町歴史探訪

成田亀逸

1. 神社

- ① 金 木 八 幡 宮 (郷社、金木村)
- ② 三 柱 神 社 (村社、川倉)
- ③ 不 動 宮 (別社、不動村)
- ④ 愛 宕 宮 (別社、金木)
- ⑤ 神 明 宮 (別社、金木)
- ⑥ 保 食 神 社 (村社、藤枝)
- ⑦ 金 比 羅 宮 (無格社、蒔田)
- ⑧ 保 食 宮 (無格社、神原)
- ⑨ 八 幡 宮 (村社、嘉瀬)
- ⑩ 稲 荷 神 社 (村社、嘉瀬)
- ⑪ 磯 崎 神 社 (村社、中柏木)
- ⑫ 熊 野 宮 (村社、喜良市)
- ⑬ 円 生 川 上 神 社 (無格社、喜良市千莉)
- ⑭ 保 食 神 社 (無格社、金木山道町)
- ⑮ 山 神 (金木村、山道町)
- ⑯ 稲 荷 神 社 (無格社、喜良市野崎)
- ⑰ 立 野 神 社 (村社、喜良市柏木)
- ⑱ 保 食 神 社 (無格社、嘉瀬)

2. 寺院

- ① 金 木 山 雲 祥 寺 (曹洞宗、金木)
- ② 金 竜 山 南 台 寺 (真宗大谷派、金木)
- ③ 青 蓮 山 妙 乗 寺 (日蓮宗、金木)
- ④ 朝 日 山 照 蓮 院 (浄土宗、金木)
- ⑤ 妙 光 庵 (曹洞宗、嘉瀬)
- ⑥ 喜良市山小林寺 (曹洞宗、喜良市)
- ⑦ 明 誓 庵 (浄土宗、嘉瀬)
- ⑧ 柴 雲 庵 (浄土宗、藤枝)

3. 民間信仰

- ① 湯 の 沢
- ② 十 二 本 ヤ ス
- ③ 川 倉 地 蔵 尊 (賽の河原)
- ④ 嘉 瀬 観 音
- ⑤ 川 倉 観 音

4. 遺跡、文化遺産及び郷土芸能

- ① 千 莉 遺 跡
- ② 相 野 山 遺 跡
- ③ 芦 野 遺 跡 (1)
- ④ 芦 野 遺 跡 (2)
- ⑤ 妻 の 神 遺 跡 (1)
- ⑥ 妻 の 神 遺 跡 (2)
- ⑦ 藤 枝 遺 跡
- ⑧ 坂 本 遺 跡 (1)
- ⑨ 金 木 城 址
- ⑩ 小 田 川 城 址
- ⑪ 津 島 家 (斜陽館)
- ⑫ 川 口 港 跡
- ⑬ 吉 田 松 影 昼 食 の 場 所
- ⑭ 明 治 校 跡
- ⑮ い ご く 跡 穴
- ⑯ 嘉 瀬 東 館 跡
- ⑰ 嘉 瀬 西 館 跡
- ⑱ 中 柏 木 城 跡
- ⑲ 下 の 切 道 跡
- ⑳ 嘉 瀬 城 跡
- ㉑ 二 ツ 森
- ㉒ 人 丸 崎

5. 一般

- ① 小 田 川 ダ ム
- ② 県 立 芦 野 公 園
- ③ 修練農場跡(現弘大農場)
- ④ 金 木 競 馬 場 跡
- ⑤ 歩 兵 大 5 連 隊 演 習 場 跡
- ⑥ 昭 和 更 生 部 落
- ⑦ 川 倉 マ グ ワ
- ⑧ ね り や 旅 館
- ⑨ 貯 木 場 跡
- ⑩ 金 木 営 林 署
- ⑪ 金 木 町 運 動 公 園
- ⑫ 歴 史 民 俗 資 料 館
- ⑬ 森 林 軌 道 跡

金木町歴史探訪

